



▲北側客室と西側客室が改装されてリニューアルした「やな場」

「やな場」が客室を改装してリニューアル

情緒豊かなあずま屋で味わうアユの味覚。6月1日（水）から



▲川のせせらぎの中、わらびき屋根のあずま屋を望む北側客室

●客室を改装して食事を
楽しむ空間をさらに演出

毎年、6月1日のアユの解禁日からオープンする「やな場」が、客室を改装してリニューアルしました。

北側客室（2部屋）と西側客室（4部屋）を改装。江戸時代に肥後藩主・細川家の代々の殿様に愛された「やな場」の風流と、甲佐ならではの豊かな緑川のアユの味覚を、さらに満喫できるようにしました。

●歴史情緒あふれるあずま
屋で味わう名物アユ料理

歴史情緒豊かな、わらびき屋根のあずま屋で味わうアユ料理。

新鮮な刺身に塩焼き、うるか、南蛮漬けなどの豊かなアユの味わいを楽しめます。

営業は、6月1日（水）～11月4日（金）で、午前11時～午後8時30分。毎月第1・3水曜日は定休日です。

料理はコース（10品）で、3,990円（税込み）。コースに生ビール（またはウーロン茶）1杯をサービスする料理券（3,890円〈税込み〉）は、甲佐町商工会で取り扱っています。

▼お問い合わせ先

・甲佐町やな場

甲佐町大字豊内1番地

TEL 096・234・0125

・甲佐町商工会

TEL 096・234・0272



▲竹で編んだ簀（す）に落ちてく
るアユの姿も楽しめる西側客室

被災地の復興支援のために町職員を順次派遣

「東日本大震災」被災地・宮城県東松島市で支援活動

県および市町村が合同で被災地支援で職員を派遣

3月11日（金）に発生した「東日本大震災」の被災地の復興支援として、県および県内市町村では合同で「熊本県チーム」を結成して職員を派遣し、復興支援活動への協力に取り組んでいます。

「県チーム」は、被災地の自治体などからの協力要請の内容に応じて結成。県防災消防ヘリコプターによる救助・搬送活動を行う搬送チームや、避難住民の健康相談活動を行う保健医療チーム、災害対策支援に関する活動を行うチーム、下水道調査を行うチーム、津波による塩害対策を行うチーム、自治体の行政事務を支援するチームなどで構成されています。

震災発生後から随時、被災地の状況と要請があった内容に応じて職員を順次派遣しており、5月までに約340人の県およ

び市町村職員が現地で支援活動に取り組みました。6月以降も要請に応じたチーム構成で、被災地支援が行われます。

町からは宮城県東松島市へ職員を派遣し復興を支援

町からは、東日本大震災の被災地で甚大な被害が発生した宮城県東松島市で復興支援活動を行う「県チーム」に、随時職員を派遣しています。

同市は、太平洋に臨む石巻湾に面した宮城県の中央部で仙台市の北東に位置し、人口が約42,000人、世帯数が約13,000世帯。このたびの大震災による被害は、5月末時点で、死者が約1,000人、行方不明者が約260人で、家屋被害が約6,000戸の状況。避難所が市内に約50か所設置され、約2,500人が現在も避難生活を余儀なくされています。

同市での復興支援活動の内容は、大震災での被害に対する確

災証明書の申請事務や仮設住宅入居に関する受付事務、被災者の生活再建に関する支援金の申請事務などを同市で行います。

町では、5月1日（日）から「県チーム」として、町職員を1人につき7日間で順次派遣。

5月は3人の職員を派遣し、6月以降も要請などに応じて派遣します。

職員の派遣に先立ち、4月27日（水）町生涯学習センターで、「被災地派遣職員壮行会」を開催しました。

派遣予定の職員紹介に続いて、奥名克美町長が「未曾有の大震災で苦しむ被災地の復興のために、本町を代表して支援活動に従事してください」と職員を激励。派遣職員を代表して、白石亨参事（環境衛生課水道係）が「県チーム」に参加する職員で心を一つにして、被災地で困難な生活を強いられている市民の皆さんを支援します」とあいさつしました。



▲4月27日（水）町生涯学習センターで開催された「被災地派遣職員壮行会」